

December 1999



ばら星雲：オリオン座の東に一角獣座があります。一角獣は額に一本の角を持つ馬に似た架空の動物で、星座はちょっと地味ですが、この中には有名な天体がいくつかあります。このばら星雲もその一つで、オリオン座のベテルギウス(右端の星)から東へ 10° にあります。写真で赤い薔薇の花の姿が分かりますが、淡いので望遠鏡で見てもこの姿を確認することはできません。

11月30日現在の「星の登録者」は4,383人です。

今年は夏の天候が悪くなかなか星を見ることができませんでした。8月の星まつりも雨に恵まれて(?)星は全く見えず、むなしい時間を過ごしてしまいました。楽しみに来られた方もいたのでしょうね。終わったことは忘れて来年を期待しましょう。ここだけの話ですが(彗星には、マスコミが騒ぐと明るくならないというジンクスがある)来年7月から8月にかけて「リニア彗星」が見られそうです。詳しくは次号でお知らせします。

綺羅星・星座図鑑

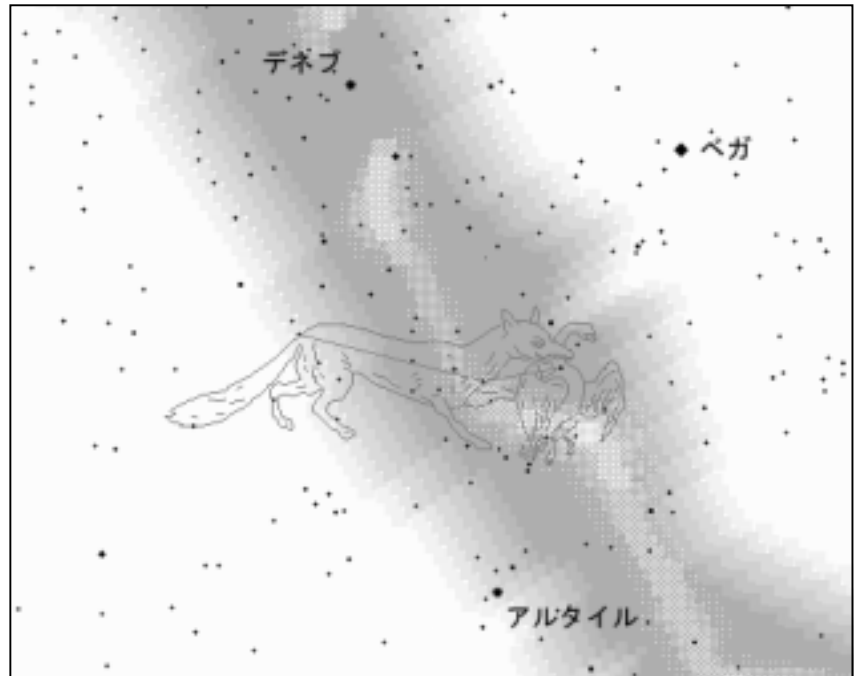
こぎつね座 (Vulpecula)

夏の空には「夏の大三角」と呼ばれる三つの1等星があり、そのほぼ真ん中あたりに小狐座があります。

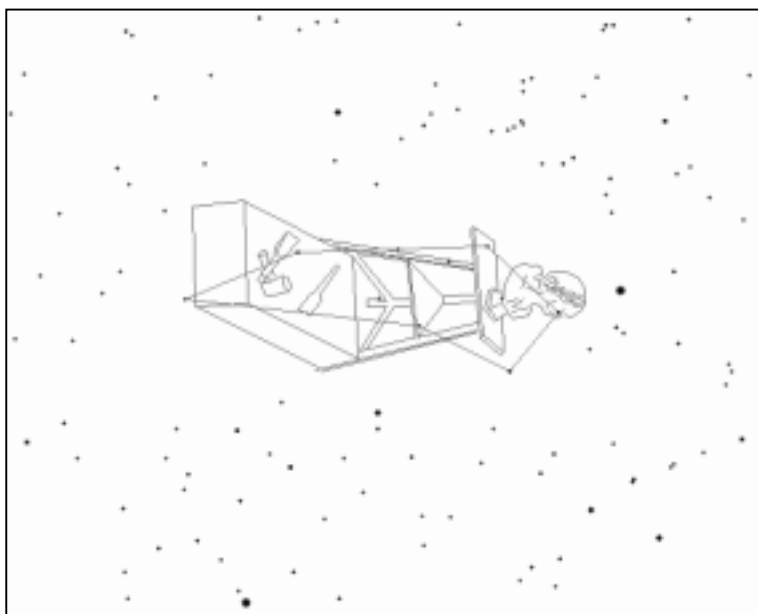
小狐座は17世紀にヘベリウスが作った星座で、最初は「小狐とガチョウ座」でしたが、その後単に小狐座と呼ばれるようになりました。

さて、この小狐の姿を夜空から探すのは大変で、一番明るい星が4.5等星と暗く、しかも星座全体が天の川の中にあります。夏の大三角の真ん中あたりにあ

るんだと納得しておけばいいでしょう。小狐座を有名にしているのは、前足の付け根付近にあるM27という惑星状星雲の存在でしょう。爆発した星の残骸で、その形が鉄アレイに似ているところから「亜鈴星雲」と呼ばれていて、望遠鏡でその姿を見ることができます。



ちょうこくしつ座(Sculptor)



秋の星座は目立たずさみしいものが多いですが、この彫刻室座は鯨座の南で、低く明るい星もないためあまり目立ちません。彫刻室座は1763年にラカイユが作った星座で、最初は「彫刻家のアトリエ」と名付けられていました。

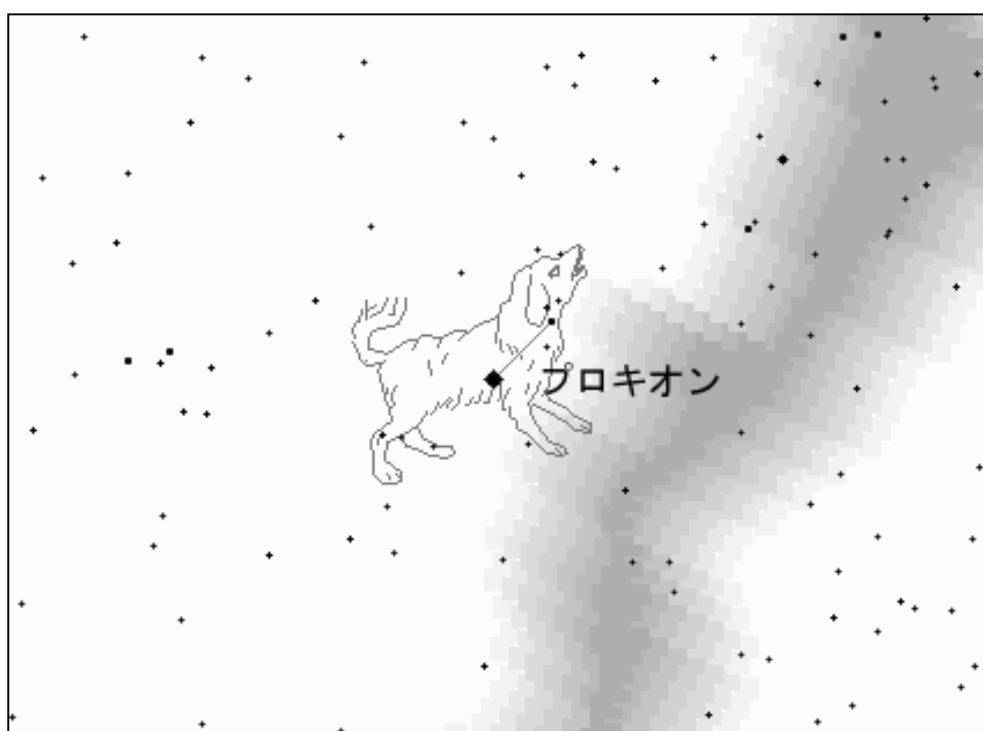
星座としてみると、一番明るい星は4.4等星ですが、南に低いのでなかなか見づらいものです。まして5等級の星ばかりを結んで彫刻室の姿を見つけだすのは容易ではないでしょう。

この彫刻室座には銀河系の南極点があります（北極点は髪座にある）。極点

方向は天の川から離れているため遠くがよく見え、髪座同様大変多くの銀河を見ることができます。中でもNGC 253 という細長い銀河はアンドロメダ銀河（M31）を小さくしたような姿で、見応えあります。

こいぬ座 (Canis Minor)

冬の代表的な星座であるオリオン座の東にある小犬座は、星座としてはあまり大きくありませんが、1 等星のプロキオンがあり、この星はオリオン座のベテルギウス、大犬座のシリウスと共に冬の大きな三角をつくっています。



小犬座はプトレマイオスの 48 星座に含まれるもので、神話では主人アクタイオンをかみ殺した猟犬メランポスだと言われています。

アクタイオンは音楽の神アポロンの孫で、農芸の神アクスタイオスの子で、後に狩りの名人となりました。ある日 50 匹の猟犬と共にキタイロンの山で鹿狩りをしているとき、いつしか糸杉の谷間に迷い込んでしまいました。

そこには月と狩りの女神アルテミスとニンフたちが泉で水浴びをしていました。犬の声に驚いたアルテミスは体を隠そうとしたのですが、アクタイオンに見られてしまい、のろいの言葉とともに水をかけました。するとアクタイオンの体みるみるうちに鹿に変わってしまったのです。この鹿がアクタイオンとは知らない 50 匹の猟犬はいっせいに飛びかかってかみ殺してしまいました。小犬座はその中の一匹の猛犬メランポスの姿なのです。

プロキオンは距離が 11 光年と近いので 0.4 等と明るく、その直径は太陽の 2.2 倍です。このプロキオンには太陽の 100 分の 1 ほどの白色わい星がくっついていて、約 40 年周期で回っているのです。ところで、かの有名な「巨人の星」というアニメがあります。その中で星飛雄馬の父、星一徹が指さしていた星はどれだろうと、探したのが初山別村の人だと言うことはご存じのことと思いますが、実はこのプロキオンだったということで、詳しいレポートはしょさんべつ天文台にあります。また、ホームページにも全文掲載されていて、アドレスは <http://tokyo.cool.ne.jp/hoshi16/> です。暇な方、興味ある方一読を。

綺羅星列伝

皆様からお寄せいただいた星物語の一部をご紹介します。お寄せいただいた物語はしょさんべつ天文台にあります。いつでも閲覧できますのでお立ち寄りの際はご一読ください。

星の名前 : **HEIWA NO ISIZI**

沖縄の地には平和のシンボルとして各国の犠牲者を平等に記名した「平和の礎（いしじ）」があります。先の大戦で私の弟もフィリピンのレイテ島で戦死を遂げました。かねて天の星にも平和の願いを込めて世界中の人が祈りを挙げられる星「平和の礎（いしじ）」があればいいなと思っていたところインターネット上で My Stars

system を知り早速登録させていただきました。

いまなお、地上には紛争が絶えず多くの犠牲者が出ています。敵味方なく多くの犠牲者の鎮魂のため、来る2000年紀冒頭に新星の発見者がその名前を「平和の礎（いしじ）」とし、それが正式に公認されれば歴史的な意義もあり、どんなに素晴らしいことでしょう。

星の名前 : **Cat's Heart**

彼の名前はピート。僕の一番の友達だ。僕はピートになら何でも話すことができたし、どんなことでも相談できた。またピートも、長い旅から帰ってくると、まず最初に僕の所へ報告しにきた。そんなときピートは、僕の目をじっと見つめて、あんなことをしてきた、こんなことをしてきた、と一生懸命に伝えてくれる。ピートは「ニャア」という言葉しか知らないが、僕にはその一言と、僕を見つめる彼の目や表情だけで十分に伝えたいことが分かった。

僕が病気で寝込んでいるとき、そして心が病んでいるとき、ピートはよく僕におくりものをしてくれた。それは、ときにはネズミだったり、スズメだったり、あるときには生きたままのコウモリ

だったりした。これはピートにしかできない、心のこもった素敵なおくりものだ。それが僕にとってどれだけなぐさめになったことだろう。そのときピートは、やっぱり僕の目を見つめながら、いつものように「ニャア」と一言だけ言葉を話す。「早く元気だせよ。元気になったらあんなことしよう、こんなことしよう。」そう言って彼は僕を励ましてくれた。

僕とピートは、よく一緒に星をながめながら話をした。ただ、いつも僕からの一方的なうち明け話だ。それでも彼は、いやな顔一つせずにじっと耳をかたむけてくれた。そして「ニャア」と言って返事をしてくれる。「くよくよするなよ。オレたちはそんな難しいことは考えないぜ。」ピート

はそう言っていた。いや、僕にはそう言っているように思えた。

その晩も、そうやって僕はピートに話をしていた。僕が話し終わると、今夜のピートは僕のヒザの上に乗ってきた。それから二人で黙って星を眺めていた。するとどうだろう。まわり中のネコたちの話し声が聞こえてくる。陽気なおしゃべりが聞こえてくる。何も気にすることなく、くよくよすることなく、毎日の一瞬一瞬を楽しんでいるかのような彼らの声が聞こえてくる。ピート、これなのかい。これを僕に聞かせたかったのかい。もちろんピートは何も話してはくれない。ただ、まぶしそうな目つきで僕を見上げ、「ニャア」と言うだけだ。でも僕にはそれで十分だった。

その次の日から、ピートはまた長い旅に出た。今度の旅は長いらしい。ひと月たってもまだ姿を見せない。心配だ。どこでどうしているのだろう。

そんな心配の中、僕の心はまた病んでしまった。こんなときピートがいてくれたなら。僕は待った。毎日、ピートとしていたように、星を眺めながら待つことにした。すると、ほんの一瞬だけネコたちのおしゃべりが聞こえるときがあった。どうしてだろう。僕には分からない。ひょっとしてピートが帰ってきたのかも。そうではなかった。そうした状態が幾晩もつづいたが、ある晩、僕は気が

付いた。北の空だ。北の星空を見上げると、ネコたちの陽気な会話が聞こえてくる。僕は下ばかりうつむいていたから気が付かなかったんだ。北の星空にはきっと何かがあるんだ。ネコたちの話し声が聞こえる、ネコたちの心が分かる不思議な力を持った星があるんだ。僕はそれを Cat's Heart (猫心) と呼ぶことにした。

そうか、ピートはきっと Cat's Heart へ行ったんだ。僕も行ってみたい。だからピート、君の帰りを待っているよ。帰ってきたらピート、いつものようにいっぱい話を聞かせておくれ。それでも君は「ニャア」の一言で済ましてしまうんだろな。でも、僕にはそれで十分さ。それだけでも、僕には君の伝えたいことがみんな分かる。あんなやつに会った、こんなやつに会った。あんなものを食べた、こんなものを食べた。それを聞くのが楽しみだ。それが君からの一番のおくりものだよ。だからピート、気をつけて帰っておいでよ。僕は何日でも、何週間でも、何ヶ月でも、何年でも君の帰りを待っているよ。

それからピート、僕はもう大丈夫だ。また落ち込んでしまうときもあるかもしれないけど、君の言うようにくよくよしなくて頑張るよ。きっとすぐに立ち直れるさ。だって君から Cat's Heart を教えてもらったんだもの。

あ、今夜もネコたちのおしゃべりが聞こえる。

星の名称 : Dr.Dai Shiraiwa

1999 年 2 月 17 日 23 才になったばかりの、2 月 23 日早朝、私達の大切な家族大君^{だいくん}が一言の別れの言葉もなく帰らぬ人になってしまいました。弟の異変に気づいた娘の知らせで、部屋に飛んでいった私達の腕の中で一瞬のできごとでした。

大君、どうしてしまったの。どこにいつてしま

ったの。どうして 22 日でもなく、24 日でもなく 23 日に何があったの。

23 年間、毎日毎日すごしてきた日々。大君との別れが、こんなかたちで来るなんてお父さんもお姉ちゃんも、今でも信じられない。お母さん達はこの 23 年間、大君からはたくさんの楽

しい思い出ばかり。幸せだったけれど大君はこれじゃ無念だね。

大好きな薬剤師になって病院に勤務して1年たらず……。入院患者さん達への服薬指導に一生懸命だった日々……。

なくなったその日の手の甲にもボールペンでのメモがいっぱいしてありました。

神様、なぜ大君がもっと長くいくことを、許していただけなかったのでしょうか。最近、息子と同じくらいの年代の男の子達を見ると、皆楽しそうに日常を生活している姿に、息子の面影をだぶらせて、その姿を追ってしまいます。今となっては、どんなかたちであれ息子の望む一生をまっとうしてほしかった。

この 23 年間の短い間に一生をまっとうできたとは思えないのです。毎日、患者さんの1人1人に長い時間をさいて薬のことだけではなく、いろんな不安などを聞いてあげていたらしい心のやさしかった息子。

あんなに毎日、薬剤師という仕事を好きで一生懸命だった、あの子がどうしてたった 23 才で、生きることを許されなかったのでしょうか。

私達の心の中にずっと残るたった一つの思い出です。まだまだこれから長い人生を生きて、大君の子供たちもその先を生きていくはずだったのに、未来への続く道がぷつりと途絶えてしまったのです。大君のくやしさを思うと、私達が長く生きていることへの後ろめたさを感じます。大君の分までもしっかりと生きるなどというきれいごとは、まだまだ言えない私達です。

今年はじめにハワイにできた世界一の日本の天文台のこと、宇宙のこと、そして太陽の寿命のことについて、私に話してくれたばかりなのに……。

大君の愛読していた雑誌「ニュートン」を、今、めくりながら今回、大君の名のついた星の近くの北斗七星が、今ごろはどこに見えるのか探す日々です。

人間の生涯には必ず終わりがあるけれど、星になった大君は永遠と言うことなののでしょうか。でも私達はまだまだ大君と一緒に生活したかった。そして、大君が幸せになっていく姿を見ていたかった。

大君、貴方は今、幸せですか。

本当の自由になって楽しんでいますか。

北斗七星を見上げながら、本当に今幸せにしていると信じなければ、毎日くらしていけない私達です。

いつの日か又、貴方と親子で会えたなら……。

もう一度会えることがあるのなら……。

せめて夜空で大君と会いましょう。

私達は、今までと同じ何もかわっていない以前と同じようにくらしています。

いつ大君が帰ってもいいように……。

すべてが夢であつたらいいのに。

1999. 6. 30 母

初山別村だより

今年は初山別村の開基 100 年、村制施行 90 年記念の年で、いろいろな行事が行われましたが、その中で将来の初山別村を担う小中学生の作文コンクールがありました。今回は、小学生の部で最優秀賞に選ばれた作品を紹介しましょう。

きれいな川になってほしい

初山別小学校 4 年 高石 麻佑子

四十年ぐらい前の初山別の様子を、お父さんに聞いてみました。今よりとても人口が多く、小学校も一クラスでしたが五十人くらいいたそうです。それから、川の話をしてもらいました。今の十倍ぐらいの水の量で、とても深くてきれいな水で、およぐことができたそうです。魚のますも、たくさんあがったと言う話もしてもらいました。私は、どうしておよげるぐらいあった川の水が、今のようになくなって、少なくなったのかなあ。と思いました。それでお父さんに聞いてみると、

「山の木が少なくなったせいもあるよ。」
と言っていました。私は学校で、社会の時間に習った森林ダムの大切さを思い出しました。

「海や川の水がよごれないように、毎日の生活でも、きたない物を流さないように気をつけようね。」

とお母さんも言っていました。また昔のようにきれいな川になるといいなあ、私は思いました。でも、お父さんは

「また昔のようにもどるには、何十年もかかるよ。」
と言っていました。私はそれを聞いて、私が大人になるころには川がまた昔のようにもどってあればいいなあと思いました。

初山別村の歴史

有明小学校 6 年 長谷川 貴之

4 月にぼくは、学校の「歴史探検」という社会の授業で、初山別にある郷土資料館に行きました。郷土資料館には昔使っていた物がいっぱいあります。わらで作ったくつや、昔の教科書や、とても古そうなカメラなどがありました。中でもすごかったのは、砂金や開たく小屋です。昔、初山別では砂金をとれたそうです。砂金は、川の中の砂に混じっています。砂金は資料館にもあるのですが、ふつうの砂と混じっていて、それにとっても見つけるのがけっこう大変でした。ぼくは、この砂金を見ていて、今でも砂金をとればいいのかと思いました。きっともう昔の人がとりすぎて、とれなくなったんだと思いました。

開たく小屋はとてもせまくて、一人二人入るのがやっとぐらいの広さでした。出入口のすぐ横には、はしごみたいなのがついていて、上にのぼれるようになっていました。開たく小屋は、木やわらでつくられていました。それに、かべはすき間だらけだから、昔の人はどういうくらしをしていたんだろうなと思いました。今のぼくたちのくらしでも、冬はとてもさむいです。昔の人は、とてもつらい冬をのりこえたんだろうなと思います。

ぼくは、この郷土資料館の中にある昔使っていた物を見て、昔の人のくらしをくわしく知ることができました。昔は機械がなかったから、今のぼくたちよりも大変で苦労したんだろうなと思いました。だからぼくは、今からでも、この村に少しだけでもいいことができるように、がんばりたいと思いました。最近では、昔と比べるとずいぶん便利になったと思いますが、昔は機械とかがなくて、今のおじいさんやおばあさんが若いころは、田うえや、畑づくりをするのは大変だったと思います。食べ物だって、ふかしいもや麦めしで、今のぼくたちのように、ぜいたくはできなかったと思います。だからぼくは、今まで苦労してきたおじいさんおばあさんたちが幸せにくらせるような村にしたいと思います。

お知らせ

「My Stars通信」のバックナンバーがわずかですがあります。ご希望の方におわけしますのでご一報下さい。

No. 1～4 在庫なし

No. 5～7 残り僅か

No. 8～9 有り

[連絡事項]

住所・氏名が変更になりましたらご一報ください。星物語はいつでも募集しています。郵便、E-mail どちらでも受け付けますので、お気軽にどうぞ。

[編集後記]

今年の初雪は昨年より1ヶ月も早く10月17日でした。しし座流星群は今年も曇天でしたが、所々雲が切れて星空は見えました。残念ながら肉眼では一つも見えませんでしたけれど、ビデオには3個映っていました。まもなく2000年、世の中2000年問題でピリピリしていますが、皆さんいかがですか。何がどうなるのか分からないので焦ってもしょうがないですね。

編集・発行 初山別村教育委員会社会教育係 〒078-4421 北海道苫前郡初山別村字初山別 155-1

インターネットホームページ URL=<http://hokkai.or.jp/shosanbe/>

E-Mail shosanbe@hokkai.or.jp